

児童教育を支援する
「博報財団」が、すぐれた
取り組みを顕彰する

第49回「博報賞」受賞

教育活性化部門

愛知県 ● 岡崎市立常磐東小学校

東日本大震災を契機に始まった積極的な防災学習

「始業の前に、地震が起きたことがあったんだけど、先生がいなくても、自分たちだけで、シェイクアウトができたんです！」

常磐東小学校の6年生が胸を張って教えてくれた。シェイクアウト(Shake Out)とは、「地震を」吹き飛ばせ！という意味の造語で、アメリカで始まった地震防災訓練の名称だ。地震発生時の安全確保行動である「まず低く、頭を守り、動かない」を身につけるこの訓練方法は、近年日本の学校や団体でも実施されるようになった。常磐東小学校でも、教師がシェイクアウトと書かれたプレートを挙げる

と、即座に安全確保行動をとれるよう、子どもたちは日々訓練を重ねていた。

折しも、シェイクアウト運動が日本で広がり出した頃、常磐東小学校でも防災学習に力を入れ始めていた。

「我が校で防災をテーマにした取り組みが始まったのは、平成25年度のこと。東日本大震災が契機でした」と近藤副校長は語る。常磐東小学校は、岡崎市の山間にある全校児童45名の小規模校だ。自然に恵まれた環境は、一方で、自然災害とも隣合わせともいえる。常磐東小学校の学区には、愛知県から土砂災害特別警戒区域に指定されている箇所もあり、ひと度、地震などが起きれば道路が寸断され、周辺地域から孤立する可能性も高い。

かつてこの地域は、良質な

花崗岩を産出し、石の町として栄えた。しかし風化した花崗岩が堆積して形成された「真砂土」は、わずかな水分でも流動しやすく、土砂災害の

要因となる。

「危険な箇所があるにもかかわらず、地域の方々の防災意識は決して高いとはいえない状況でした。そこで、避難場所となっている学校がまず核

となり、意識向上を呼びかけていくことにしました(近藤校長)

活動を通して子どもたちに芽生えた自主性と地域の一員という自覚

現在、防災学習は各地で盛んに行われている。常磐東小学校の大きな特徴は、防災学習を通して子どもたちの達成感や自信を育んでいる点である。それを可能にしているのが、地域や愛知工業大学、NPOなどとの緊密な連携と協力関係だ。

「学区内の全世帯(約340世帯)へ配付する防災アンケートの集計結果をもとに、一人ひとりが課題を見つけ取り組むのですが、子どもたちの力だけではクリアできない問題も多々出てきます。そんな時は、専門的な知識をもった大学の先生方や地域の総代さんたちと相談し、様々な手

段や方法を教えてもらいながら、とにかくやってみます。我々学校だけではここまで活動はできません。皆さんの協力には、本当に感謝しています(近藤校長)

地域と専門家の力を借りながら実現してきた活動は、児童がデザインした防災看板の設置や防災ア

メ(備蓄糖)の販売、1泊2日の避難所宿泊体験学習、危険箇所が立体的に見えるようドローンを飛ばして調査し制作した「防災3Dマップ」など、多岐にわたる。こうした継続的な防災学習は、積極的に考え、行動する力を着実に養っている。子どもたちが地域のために本気で取り組む姿に突き動かされ、地域の防災意識も高まってきているという。

「うちでは備蓄品を準備していなかったんだけど、わた

しから家族に話して、用意するようになったの」「うん、わたしたちが暮らしている周りには、思っている以上に危険な場所があるんだもんね」

ふだんからこうした会話が交わされる教室で、多くの人々と関わりながら、防災学習を通じて自主性や地域の一員であるという自覚を育んでいる子どもたち。それは確実に学ぶ楽しさにつながっている。



平成30年度の防災学習では子どもたちの提案で、長野市立信里小学校とインターネット回線を通じてテレビ交流授業も行っている。

子どもたちの良さを引き出し 地域の一員としての自覚と 自主性や達成感を育む防災学習

防災学習に熱心に取り組む岡崎市立常磐東小学校。
学校・地域・関係諸機関が緊密に連携した学習活動に、博報賞(教育活性化部門)が贈られた。

推薦者 お祝いのことば

岡崎市教育委員会
安藤直哉 教育長

5年間という長期にわたる常磐東小学校の防災学習の功績が、この度の博報賞という輝かしい栄誉として認められましたことを嬉しく思います。子どもたちの防災意識を高めるだけでなく、地域にお住いの方や大学・企業等の方々との関わりを通し、子どもたちが地域の一員としての自覚を持つことができるようになったことも、大きな成果です。今後子どもたちが地域の大切な人材として成長することを願ってやみません。

本実践の中で、子どもが調べたい、試したいと考えたことを実現させるため、ご支援いただいた先生方、地域の皆様、大学・企業等の皆様に感謝いたします。



防災学習を通して自主性を育んでいる子どもたち。



日頃のシェイクアウト訓練によって、自分で自分の身を守れた!と自信をつける子どもたち。



愛知工業大学のサポートを受け、子どもたちが夏休みや休日を利用して町歩きをしながら作成した防災3Dマップ。



防災学習に積極的に取り組む近藤嗣郎校長。



児童がデザインした防災看板の設置。